

5月15日は「歴史的な日」になるだろう。大平洋戦争中、フエアン宮三首相リビウ戦線で生死を争は合見を開き、集團的まよった中内氏は「ご自衛権の行使容認を檢んたことがあっても、討する考えを表明し戦争だけは絶対避けだ。「他國を武力で守る」ことが、日本の平和憲法の本質を要する

「人間と人間が殺し合つたなんて、あんな悲惨なことはない。だが、この歴史的な大転換に対して、経済界は沈黙を守り、1980年、京都であった関西財界セミナ1。当時、関西経済連合会長だった日向友奇・住友金属工業委員長が「防衛力を強化し、徴兵制を研究せよ」の議論を展開した。日本出ていき、世界経済の発展に貢献することだ。

「異議あり」。そのとき、声を上げた経営者は、平和と共存共栄を旨とする企業文化であり、ダイエー創業者の中内功氏である。「戦争になれば、あなたの会社はもうかるかもしれないが、あなたの息子の命を落としておいて、皆さんの意識が問われ

その土台になるのだから。この歴史的な転換点に黙るな

冒とる企業文化であり、ダイエー創業者の中内功氏である。「戦争になれば、あなたの会社はもうかるかもしれないが、あなたの息子の命を落としておいて、皆さんの意識が問われ

この欄は、第一線で活躍している経営者、学者など社外筆者の執筆によるものです。

5月15日は「歴史的な日」になるだろう。大平洋戦争中、フエアン宮三首相リビウ戦線で生死を争は合見を開き、集團的まよった中内氏は「ご自衛権の行使容認を檢んたことがあっても、討する考えを表明し戦争だけは絶対避けだ。「他國を武力で守る」ことが、日本の平和憲法の本質を要する

「人間と人間が殺し合つたなんて、あんな悲惨なことはない。だが、この歴史的な大転換に対して、経済界は沈黙を守り、1980年、京都であった関西財界セミナ1。当時、関西経済連合会長だった日向友奇・住友金属工業委員長が「防衛力を強化し、徴兵制を研究せよ」の議論を展開した。日本出ていき、世界経済の発展に貢献することだ。

その土台になるのだから。この歴史的な転換点

この欄は、第一線で活躍している経営者、学者など社外筆者の執筆によるものです。